

国立国語研究所学術情報リポジトリ

用語の集中度と共通度：新聞各層間の比較において

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 村木, 新次郎, MURAKI, Shinjiro メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001019

用語の集中度と共通度

——新聞各層間の比較において——

村木新次郎

この稿では、新聞の用語を二つの量的な側面から考察する。二つの側面というのは、一つは用語の集中度についてであり、他の一つは、用語の共通度についてである。

新聞には、いろいろな文章形態があるので、それぞれの角度からの区分が行なわれた。^(注1)ここでは、「目的や動機」あるいは「表現活動の性格」によって分類された、16の「文種」の各層をとりあげ、それらを比較してみたい。^(注2)16の区分とは、以下のものをいう。

01 ニュース	02 ニュース解説	03 社説コラム
04 特集記事	05 特別記事	06 評論
07 実用読物	08 採訪ルポ	09 ニュース展望
10 記録通知	11 紹介記事	12 読者作文
13 相互通信	14 小説	15 商業広告
16 案内広告		

「01」～「16」の数字は計算機処理のために用いたものであるが、表などで便宜上この数字を使うことがある。

さて、用語の集中度というのは、異なり語数の伸びと延べ語数の伸びとの関係を、使用率のたかいものについてや全体の分布についてみるものであり、そこでは個々の語を問題の対象から除外し、ただ用語の分布のみに着目する立場をとる。一方、用語の共通度というのは、二つの分野にそれぞれ使用されている用語がどの程度共通しているかを見るものである。

分析の対象として扱った用語は、新聞三紙一年分からエリア・サンプリング（抽出比1/60）で調査対象となった長単位語、約200万語である。

この調査の対象は、句読点、記号類なども用語として含まれていること、また、動詞、形容詞などの活用する語について、その変化形がひとつにまとめられていないこと、さらに、同じ表記で別の語であるもの（たとえば「米」のように、「コメ」「アメリカ」「メートル」など別々の語が同一の表記をとっているもの）の区分がなされていないことや、別の表記をとってはいるが、実際は同じ語であるもの（たとえば、「言葉」と「ことば」と「コトバ」）の統一がなされていないこと、などの点で從来からあった語彙表とは性格を異にするものである。それは、語彙論的な性格を欠く、いわば同表記（語彙）表、あるいは同形文字列表とでもいうべきものである。^(注3)

語彙論的な語彙表でないことの不備は、語彙構造の細かい分析や他の語彙調査との比較などを試みる場合、それに充分にこたえられるものではないが、しかし、ここではそういった不備を承知しつつ、新聞の各層間の用語の量的構造を概観してみたい。

なお、この種の分析は、次のような前提があつてはじめて成立つものと思う。この種の分析とは語彙の計量的分析という意味であるが、そこでは、調査対象となる各々の語がすべて等質であると考えること、これが前提となる。ここで等質ということの意味は、「人間の生きがい」というときの<人間>も、「変わった人間」というときの<人間>も同じものとして扱うということであり、さらに、<人間>も<の>も<生きがい>も<変わった>も<た>も同じレベルのものである、ということでもある。もちろん、語の認定の仕方や、<人間><生きがい>と<の><た>との間にレベルの違いを設けるということもありうるが、それもやはり上の前提のバリエーションでしかない。そういう前提のうえにはじめて統計的処理が意味をもってくる。語の使用率も分布曲線もすべてこの前提のもとでののはなしである。

ところで、私自身このような前提に疑いを持たないわけではないが、前提はあくまで前提であり、その前提のもとで何かがつかめ、それが用語の問題を把握する一助となるのではないかと考える。前提のたて方については、たとえば記号類や句読点は語と認めない方がよいとか、自立語のみを対象として分析したほうがよいとか、いろいろ立場によって変わってくる。ここでは、コンピュ

ータを利用して得た調査データを用いるので、人間向きの語の規定というよりは、機械向きの語の規定ともいえるものに従っての前提である。

ところで、この用語調査じたい、サンプリング理論を適用しているので、本来ならばそれをふまえて分析すべきであるが、この稿では、標本についてのみ考えていることをお断りしておく。

注1) 話題・文種・情報源記載形式（無記名か記名入かなど）・記事の位置（見出し、標題、本文などの区別）の四点から立体的にとり扱われている。詳しくは、国研報告34. 林四郎氏『新聞語彙調査における層別とその意味』参照。

注2) 上の文献では17の文種に区分され、「漫画」が含まれているが、この層はデータ数が少ないため、ここでは省略した。なお我々は、注1の区分を層別とよんでいるため、各分野のことを層とよぶことがある。ところで層別区分に対する疑問がある。どこからどこまでが、どの層であるといった区分が、実際上大変むずかしい。それは、ある意味では、スペクトルのように連続するもので、どうしても、中間的性格のものが出てくる。ここでは記事単位によって処理されたデータを利用するわけであるが、そこにあらわれるエラー処理（層分けの不完全さ）は全体として互いに相殺しているものとみることにする。大量の調査には個々のデータのエラーは、ある程度、まぬがれえない。

注3) 仮に、語を「形態論的な語」「語彙論的な語」「意味論的な語」と区別するときの語彙論的な語彙表を指している。この区分に従えば、「形態論的な語」のリストは形態表、「意味論的な語」は意味表というべきで、語彙表とはっきり区別する必要がありそうだ。この稿で使用した用語表は、その意味では形態表にあたる。

I 用語の集中度

この章では、個々の語がどういう語であるかという語の種類、性質などは問題としない。もっぱら語彙を総体的にみて、その集中度をはかる。

(1) 使用率を規準にはかる方法

各々の分野で用いられている語を、使用率のたかいものからひくいものへと整理したとき、それはどのように分布するであろうか。さきに挙げた16の層と新聞全体について、ある一定の使用率以上の見出し語の数と、それらの見出し語の延べ語数の和がその層全体の延べ語数に占める割合とを調べてみた。表I 1.はその結果である。

表のPの欄に示した、それぞれの値以上の使用率をもった見出し語の数が、各層別に示してある。括弧内の数字は、その見出し語で延べ語数のどの程度を占めるかの割合(%)を表わしている。Pの値は便宜的に定めた。各層間を比較するのが目的なので、区切りやすい数字を適当に選んである。級間隔は分布の性質上一定ではない。もっと細かく区分することもできるが、層の数が多く煩雑になるのをさけて、大まかに7区分とした。

この表から、語の使用率の分布における各層間の似寄りや違いなどをおおむねつかむことができる。

たとえば、「ニュース(01)」と「ニュース解説(02)」と「社説コラム(03)」の三層をみてみると、10パーセント以上のところを除いて、

ニュース < ニュース解説 < 社説コラム

という関係が成立する。「社説コラム」は「ニュース解説」より、「ニュース解説」は「ニュース」より用語が集中していることを示している。用語が集中しているというのは、全体の一部に偏しているという意味で用いている。

全体的にみて、極度に他のものから逸脱しているのは、「案内広告」、「商業広告」、「記録通知」である。「記録通知」は、経済欄の銘柄表やラジオ、テレビの番組表などを含んでいる関係上、ふつうの文章とは性格を異にする。また、「商業広告」はふつうの広告、「案内広告」はいわゆる三行広告を指し、これらの二層も他の分野に比べると異質なものである。これらはいずれも非文章形態の表現をとっている層だといえる。

この章では、個々の語を問題の対象外とする立場であるが、いま使用率が上位にある語と分布とを参考までにみてみると、全体に使用率のきわめてたかい語というのは、「。」「、」「の」「を」「た」「で」「こと」「もの」など句読点や助詞助動詞、それに形式名詞の類である。語を内容語(content words)と機能語(function words)に分けると、どれも機能語にあたるものである。それらは、個別に概念をもっているのではなく、文や文章の中で、句や文や語をつなぎ互いの関係を示す働きをしたり、形式名詞のようにそれ自体漠然とした概念しかもっていなくて文脈の中でその働きが規定されるものであったりする。要するに、文章中に使用されてはじめてその役割をはたす語である。広告欄や

表 I 1. 用語の使用率の分布

P (%)	50	20	10	5	2	1	0.5
01	2 (12.3)	8 (28.8)	13 (36.5)	19 (40.1)	35 (45.6)	62 (49.2)	114 (52.6)
02	2 (12.4)	9 (31.7)	11 (34.9)	23 (42.8)	37 (46.7)	65 (50.5)	142 (55.8)
03	2 (13.3)	9 (33.1)	12 (37.5)	21 (43.7)	37 (48.5)	68 (52.8)	129 (56.9)
04	2 (12.6)	9 (32.2)	11 (35.3)	23 (43.9)	34 (47.2)	64 (51.4)	129 (55.8)
05	2 (12.6)	9 (32.3)	11 (35.7)	23 (43.9)	34 (47.5)	66 (51.9)	121 (55.4)
06	2 (12.6)	9 (32.4)	12 (36.7)	20 (43.2)	36 (48.4)	69 (53.1)	137 (57.7)
07	2 (12.2)	8 (29.9)	11 (34.3)	24 (42.4)	37 (46.3)	75 (51.3)	133 (55.1)
08	1 (5.2)	8 (25.7)	16 (38.9)	19 (40.6)	40 (47.6)	63 (50.6)	123 (54.9)
09	2 (12.8)	8 (29.6)	13 (36.9)	17 (39.7)	35 (45.0)	67 (49.4)	—
10	1 (6.6)	6 (20.2)	11 (28.4)	20 (34.9)	42 (42.3)	63 (45.3)	143 (50.4)
11	2 (12.5)	9 (31.1)	13 (36.8)	22 (42.9)	34 (46.6)	55 (49.5)	108 (53.2)
12	2 (11.4)	8 (29.0)	11 (33.9)	22 (41.4)	37 (46.4)	72 (51.5)	138 (56.0)
13	1 (6.4)	8 (28.1)	10 (31.2)	23 (40.6)	42 (46.7)	77 (51.4)	156 (57.5)
14	1 (6.8)	9 (33.1)	13 (39.6)	20 (44.1)	35 (48.8)	67 (53.3)	145 (58.9)
15	0 (0.0)	6 (16.9)	11 (24.3)	19 (30.2)	31 (33.9)	57 (37.6)	108 (41.0)
16	0 (0.0)	4 (13.6)	5 (15.5)	12 (20.2)	49 (32.1)	109 (40.7)	221 (48.4)
全体	0 (0.0)	6 (16.9)	16 (30.9)	20 (33.7)	32 (37.4)	60 (41.4)	134 (46.5)

その使用率までの累加異なり語数（括弧内は層全体の延べ語数に対する割合%）

記録通知の層ではそういった語の使用率がひくくなり、数字や記号類の使用率とならぶ。そのために50パーセント、20パーセントの使用率をこえる語というの

は、ふつうの文章からなる他の層より少ない。

各層をまとめた新聞の語彙全体の使用率の分布で、きわめてたかい使用率をもつ語が少ないので、各層の上位にある語が相殺されているからであろう。

このように比較的使用率のたかい語がどのように分布しているかを知ることによって、ある程度、語彙の集中度がわかる。

(2) 使用順位を規準にはかる方法

使用率のたかい順に語をならべ、ある一定の順位までの累加述べ語数とその分野に含まれる全体の延べ語数との比を集中度と考えることもできる。フランスのP. ギローは上位50語までと全体の延べ語数との比をもって集中度としている。^(注4)それを式にあらわせば次のようになる。

$$C = \sum_{i=1}^{50} fi / \sum_{i=1}^n fi$$

(ただし、n: 異なり語数、使用率(i) \geq 使用率(i+1)とする)

ギローの考案したこの式が、ただちに日本語の場合に妥当であるかどうかは検討してみる必要がある。また、使用するデータが語彙論的な語彙表でないものであるため、いくぶんこの式を修正する必要もありそうだ。そういった点の考察は保留して、とりあえずこの式を多少延長した形で各層間の語彙の集中度を測定してみた。その結果は表 I 2. に示してある。

ところで、この場合、延べ語数の違いが気になる。ちなみに、延べ語数の多い「ニュース」「記録通知」「案内広告」などの層の集中度が他よりひくい。比率を問題にしているのであるから、実測数の多少にかかわらず、少なく調べたものと多く調べたものが、縮図と拡大の関係を呈しているといえるであろうか。しかし、そうとはいいがたい。異なり語には、おのずと限界があるはずだと思われる。調査対象をどんどんふやしても、異なり語がふえない状態があるはずである。そのことを考えると、やはり延べ語数の違いは問題点となる。異なり語の限界がどのあたりにあるかは興味ある問題であるが、今後の課題とする。それは当然、その分野によって違うはずである。

延べ語数の差異による障害はあるが、表から判断すると、各層間の集中度の

表 I 2. 用語の集中

(比率はいずれも %)

	延べ数	異なり語数	百分比	上位50	上位100	上位200	上位500	上位1000
ニュース	452,876	66,900	23.02	47.85	51.83	55.85	61.89	66.63
ニュース解説	29,217	7,985	1.48	48.78	53.36	58.11	65.11	71.23
社説コラム	57,554	12,818	2.93	50.63	55.30	59.76	66.26	71.76
特集記事	53,427	12,913	2.72	49.76	54.13	58.60	64.92	70.31
特別読物	101,851	21,798	5.18	50.00	54.31	58.61	64.46	69.25
評論	45,000	10,936	2.29	50.72	55.54	60.24	66.76	72.11
実用読物	41,844	10,272	2.13	48.35	53.22	57.80	64.70	70.70
探訪ルポ	80,950	16,458	4.11	49.15	53.64	58.03	64.67	70.26
ニュース展望	5,184	2,070	0.26	47.41	52.33	58.68	69.71	79.36
記録通知	426,804	53,519	21.69	43.74	48.00	52.92	59.59	64.58
紹介記事	75,580	18,793	3.84	48.98	52.75	56.60	62.33	67.31
読者作文	31,192	8,099	1.59	48.65	53.85	58.73	66.01	72.25
相互通信	28,538	7,624	1.45	48.11	53.48	58.92	66.16	72.47
小説	34,754	8,347	1.77	51.29	56.11	61.28	68.17	74.08
商業広告	200,576	45,952	10.19	36.79	40.58	44.36	50.42	56.09
案内広告	299,651	42,255	15.23	32.31	39.72	49.81	57.66	65.32
その他	2,577		0.12					
全 体	1,967,552		100.00	40.22	44.58	49.06	54.88	59.94

関係は次のようになる。「>」は左辺が右辺よりいくぶん集中度のたかいことを示し、「»」は、その差のかなり大きいことをあらわす。

さきの式の一般式である

$$\sum_{i=1}^s f_i / \sum_{i=1}^n f_i$$

において、

(1) $s = 50$ のとき

小説 > 評論・社説コラム > 特別読物・特集記事 > 探究ルポ・紹介記事・ニュース解説・読者作文 > 実用読物・相互通信・ニュース・ニュース展望 > 記録通知 > 商業広告 > 案内広告

(2) $s = 100$ のとき

小説 > 評論・社説コラム > 特別読物・特集記事・読者作文・探訪ルポ・相互通信・ニュース解説・実用読物 > 紹介記事・ニュース展望 > ニュー

ス>記録通知>商業広告>案内広告

(3) $S=200$ のとき

小説>評論・社説コラム>相互通信・読者作文・ニュース展望・特別読物・特集記事>ニュース解説・探訪ルポ・実用読物>紹介記事・ニュース

>記録通知>案内広告>商業広告

上の結果をみると、大部分のものは、上位50語であれ、100語であれ、200語であれ、この範囲であれば集中度の大小関係は大きく変化しないようである。その例外は「ニュース展望」「相互通信」「案内広告」などであろう。

「ニュース展望」は、上の図で次第に集中度のたかいほうに移行する。この層は、他の層に比べて標本延べ語数が少なく、使用率の分布そのものが安定していないからであろう。この層は、「社説コラム」に近い文章であると予想され、図のもっと左にきてしかるべきものである。上位500語までの集中度測定の結果によると、「ニュース展望」が一番左にきて、そのあと「小説」「評論」「社説コラム」と続く。上の図での、この層の移動は、やはりデータが少量であるためであろうと思われる。

「相互通信」も次第に集中度のたかいほうに移行している。これは、「ニュース展望」の次に標本延べ語数が少ない分野であるが、このあたりの使用率は安定していると思われ、「相互通信」のこの変化はこの層の特徴になるであろう。「案内広告」は「商業広告」との大小関係が、途中で入れかわる。こういったことは、あとでとりあげる分布曲線を描くことでより明らかになる。

以上、ギローの集中度の公式を延長させて利用してみた。その結果、各層の語彙の集中の度合を整理してみると次のようになろう。もちろん、新聞記事という範囲内での相対的な規定である。

集中度がややたかい層………小説 評論 社説コラム

集中度がふつうの層………特別読物 特集記事 読者作文 相互通信

探訪ルポ 紹介記事 ニュース展望 ニュース解説 実用読物

集中度がややひくい層………ニュース

集中度がかなりひくい層………記録通信 商業広告 案内広告

これらのグループ分けは、集中度のたかいものがより文章的であり、反対に集中度のひくいものがより非文章的であるといえそうである。この範囲内では語彙の集中度の高低と文章的であるかそうでないかとの二つの尺度の関係が強いようである。このことが一般性をもつかどうかはまだわからない。句読点やいわゆる付属語も含んでいることが以上の結果を左右していると思われる。

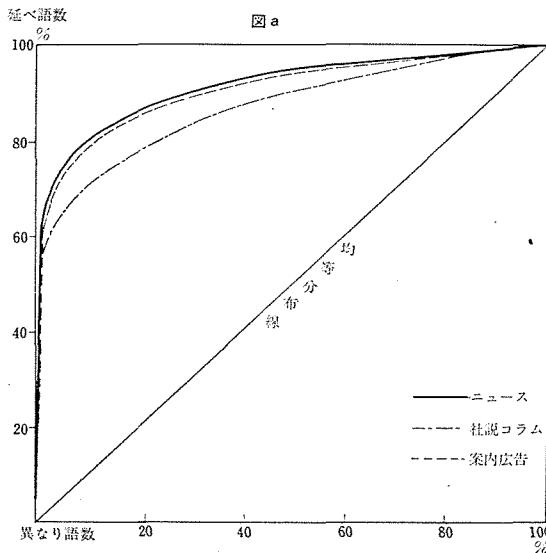
「小説」で集中度がたかいのは、あるいは、固定した個人の執筆によるせい。 「小説」では、人名地名なども定まったものしか使われない。これは、延べ語数を小さくし、ひいては集中の度合をたかくする。また、執筆者が一定していることは、表記のゆれも少なくしていると予想される。これも、集中度をたかめる要因であろうか。

(3) 分布曲線（ローレンツ曲線）による方法

(1) や (2) の方法では、比較的使用率のたかい語のみを扱ってきた。上位語の部分を以て語彙の集中性をみたのであるが、全体の語彙の分布から語彙の集中性を測ることはできないものか。ローレンツ曲線は、経済学の分野で元来所得の分布状態を比較する方法として考案されたものであるが、言語現象の分析にも利用されているようである。^(注5) ここでも、異なり語数の伸びと延べ語数の伸びとの関係をみると、ローレンツ曲線が応用できそうである。おののの

表 I.3.

異なり語累積比率	0.5%	1%	2%	5%	10%	50%
ニ ュ ー ス	59.25	66.02	68.72	75.59	80.87	88.86
社 説 コ ラ ム	49.04	56.82	61.41	68.19	73.83	87.92
特 集 記 事	51.42	55.77	60.28	66.84	72.53	89.30
特 別 読 物	54.81	59.15	63.77	69.77	75.19	87.85
評 論	51.40	57.80	60.85	66.72	72.86	87.57
探 訪 ル ポ	52.39	56.78	61.55	68.63	74.74	89.84
記 録 通 知	55.11	60.06	65.12	74.66	81.73	
紹 介 記 事	52.42	56.24	60.44	66.83	72.36	
小 説	50.03	54.77	59.97	66.74	72.48	
案 内 広 告	47.94	55.74	63.46	73.41	80.34	92.95



の伸びとは累積度数のパーセンテージのふえ方という意味である。使用率がすべての語について同じなら、図 a の対角線である、均等分布線に一致する。そうでない場合は、弓状の曲線を描く。ふつうは計測値の小さいものから大きいものへと示されることが多く、曲線は対角線より下側にくるのであるが、ここでは、さきの使用率の分布のときと同じように、使用率の大なるものから小なるものへと移行させたので、図のような対角線の上側に弓形の曲線ができる。こうした場合、この曲線と対角線とで囲まれた面積をもって分布の集中度とすることができる。この面積が大きいほど集中の度合が強いことは当然のことである。面積は、積分によって求めることが可能であるが、この場合だと、シンプソンの近似式を変形して、その値を求めてもいいだろう。集中度 C は次式によって求められる。

$$C = \frac{1}{6} \{2y_1 + y_2 + 2y_3\} - 2.5$$

y_1, y_2, y_3 は、異なり語数のそれぞれ 25%, 50%, 75% の延べ語数の百分比を 100 で割った値である。対角線と弓形でできる面積（すなわち集中度）は、対角線と他の二辺とによってできる直角三角形より大きくなることはなく、矩形の面積を 1 とすると、集中度 C は、0 と 0.5 の間の値をとる。

表 I 3. は主なもの10層について異なり語のそれぞれの百分比 (0.5, 1, 2, 5, 10, 50%) に対して延べ語の百分比のいくらにあたるかを計算したものである。異なり語で、その百分比が i 番目と $(i+1)$ 番目の間にきたときは、 i 番目までの延べ語数の和に、 i 番目と $(i+1)$ 番目の語の延べ語数を比例配分し、それを加えて計算した。

この方法で、次の五層について測定した結果を示す。

評論	0.313
案内廣告	0.318
特別読物	0.322
社説コラム	0.350
ニュース	0.358

調べた五層に関しては、「評論」が一番集中の度合が小さく「ニュース」のそれが一番大きい。

使用率のたかいものも、きわめてひくいものも集中度の値に関係してくるのであるから、この方法による測定は、より精緻だと一往はいえる。ところで、上の数値と、(1) や (2) で得られた結果とをあわせて考えてみると、「ニュース」の場合、その性質上一回きりしか使われない人名地名などが多く、それが原因で (3) の集中度の値がたかいのだと思う。「評論」は、(1) (2) の結果より、上位語にかなり集中していることがわかるが、上位語を除いたものは使用率が均一化しているとみられる。

ともかく一般に、上位語だけでみた集中度と全体の分布での集中度とは別のものである。前者は、集中度というよりは、上位語の反復度ともいすべきものである。後者は、すべて同じ使用率であることからどの程度かたよっているかを測るものであり、そのかたよりは、上位語のかたよりと、頻度数のきわめてひくいものの多少によって決められる。図 a のようなローレンツ曲線を得るのはふつう大変やっかいなことなので、上位語へのかたよりを (2) の方法でもとめ、さらに頻度数 1 や 2 の全体に占める割合をもとめ、二つをあわせて計量化し、(3) にあてはまる集中度を得ることもできよう。

参考までに各層の度数 1, 度数 2 であった標本語数を表 I 4. に掲げる。

表 I 4.

	延べ語数	異なり語数	標本度数 1	標本度数 2
ニュース	452,876	66,900	44,666	8,820
ニュース解説	29,217	7,985	5,710	1,129
社説コラム	57,554	12,818	8,984	1,729
特集記事	53,427	12,913	9,266	1,660
特別読物	101,851	21,798	15,498	2,755
評論	45,000	10,936	7,957	1,401
実用読物	41,844	10,272	7,132	1,421
探訪ルポ	80,950	16,458	11,114	2,236
ニュース展望	5,184	2,070	1,607	254
記録通知	426,804	53,519	34,045	6,851
紹介記事	75,580	18,793	13,744	2,362
読者作文	31,192	8,099	5,804	1,033
相互通信	28,538	7,624	5,526	963
小説	34,754	8,347	5,983	1,066
商業広告	200,576	45,952	30,726	6,469
案内広告	299,651	42,255	27,311	5,553

表 I 5. 語彙の豊かさ

ニュース	99.40
ニュース解説	46.72
社説コラム	53.43
特集記事	55.87
特別読物	68.30
評論	51.56
実用読物	50.20
探訪ルポ	57.84
ニュース展望	28.75
記録通知	81.92
紹介記事	68.36
読者作文	45.86
相互通信	45.13
小説	44.78
商業広告	102.60
案内広告	94.56
全 体	

これに関連して、延べ語数と異なり語数とをもって語彙の豊かさ (R) をはかる、ギローの次の式に、今回の調査結果を応用してみた。

$$R = \frac{\text{異なり語数}}{\sqrt{\text{延べ語数}}}$$

この式によって、各層の語彙の豊かさ (R) をもとめた結果が表 I 5. である。これによると、「商業広告」「ニュース」「案内広告」などの分野が、語彙が豊かであることを示し、反対に、「ニュース展望」が豊かでないことを示している。ところで、前者の三層は、共通して、その標本度べ語数が多く、後者はそれが他より少ない。この延べ語数による違いによって起こった誤差が表 I 5. の結果に含まれるのではないかと思う。語彙の豊かさをはかる尺度として、ユールの「K特性値」などもあり、今後検討してみたいと思っている。

注4) この式の分母は、ギローの場合、 $2N$ と示され、 N は most fots の数をあらわしている。総語数は、その倍であるとされている。

注5) 宮島達夫氏が「<かかり>の量的性質」(『現代雑誌九十種の用語用字第三分冊』所収) の中で、ローレンス曲線の考え方にもとづいて、<うけ>の集中度の測定を、試みている。

また、野村雅昭氏も、「用語用字調査における用語と用字の関係についての実

験（その1）」（『LDD4』所収）の中で、宮島氏にならって漢字の使用が、特定の語に集中するか、あるいは数多くの語に均等に用いられるかを数量化している。

II 用語の共通度

いくつかの分野があって、それぞれの分野の中に使用されている用語が、どの程度共通しているかを測定する。それは、用語の共通度、あるいは用語の類似度といえようが、このことが、ただちに分野（あるいは一般に作品）の共通度、類似度とみることはできない。ただ、作品の似寄りの一つの大きな要因として、用語の共通度をあげることはできよう。

さて、作品Aと作品Bの用語の共通度を測る方法としては、かつて『計量国語学』誌上で次のような式が示された。

$$C_{AB} = \frac{x}{a+b-x} \quad (注7) \quad (a, b: 各作品の見出し語の数, x: 二つの作品に共通な見出し語の数)$$

$$C_{AB} = \frac{x}{\sqrt{ab}} \quad (注8) \quad (同上)$$

これらの式は、二つの作品の長さの違いによって、大きな影響を受ける。宮島達夫氏はこういった式を検討された末、次のような、使用率により用語の共通度を測る方法を示された。

$$C_{AB} = \sum_i \min [Pi(A), Pi(B)] \dots \dots \dots \quad (IIa)$$

この式の意味するところは、ある語が、作品Aにおいては、その使用率が $Pi(A)$ 、作品Bにおいては、その使用率が $Pi(B)$ であるとき、その小さいほうの値をすべての見出し語についてもとめ、それらの総和が二つの作品の共通度であるということになる。そして、これは次式のように、表わすこともできる。（詳しくは『国語学』82を参照されたい）

$$C_{AB} = 1 - \frac{1}{2} \sum (|Pi(A) - Pi(B)|) \dots \dots \dots \quad (IIb)$$

IIa式やIIb式で表わされる、この作品の共通度 C_{AB} のとりうる値は、0と1の間で、二つの作品に全く共通な語がみられない場合に0、各語の使用率

表II. 各層間の用語共通度表

がすべての見出し語について、一致する場合に 1 という値をとる。実際には、 C_{AB} の値が 1 に近づくほど共通の度合がたかく、0 に近づくほどその度合がひくいということになる。

表Ⅱ.1.に示したものは、宮島氏の示された測定方法により、各分野間の用語の共通度を調べた結果である。測定に使用した用語表は、はじめに断わったように同表記表あるいは同形文字列表ともいるべきリストであって、語彙論的な意味での用語表のリストではない。だから、語彙論的な、いわゆる語彙表にもとづき、同じ測定を試みるなら、ここに示した数値と、いくらか違った値を示すに違いない。しかし、新聞のデータは、雑誌などに比べれば比較的表記が案定していると予想されるので、一方に、同表記で別語という問題をはらんではいるが、各分野間の関係を大まかに知ることにたいした差し障りはないであろう。本来ならば、標本度数の小さいものは、この種の分析に利用しにくいが、標本どおしの比較ということで度数にこだわらず、すべての異なり語を対象に計算してみた。

表は、各層間の共通度測定結果のうち、もっともその値のたかかった「社説コラム～特集記事」を左肩にし、「社説コラム」との共通度のたかいものからひくいものへの順に、配列してある。この配列により、一般に表の右にいくほど、また下にいくほど共通度の値が小さくなる傾向をもつ。すべてがそうだというわけではない。中には順序が入れかわるものもある。

たとえば、「特集記事」と他の分野との共通度の値はどれも、上のものが下よりも大きく、「社説コラム」と他の層との共通度の関係と全くパラレルであるが、「特別読物」は、それと平行の関係を呈さないようである。

共通度のたかい組合せとしては、次のようなものがあげられる。

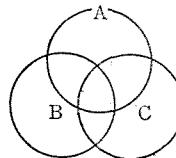
社説コラム～特集記事	.708
特集記事～特別読物	.706
特別読物～評論	.706
社説コラム～特別読物	.700
社説コラム～評論	.694

これとは反対に、「案内広告」「記録通知」「商業広告」は、どの層との共

通度もその値はひくい。「商業広告」はどの層との共通度もすべて0.3から0.4までの値をとり語彙の面で他の分野との距離がほとんど等しいことを知らせる。「案内広告」は、他との共通度で極めてひくい値を示し、この層独特の用語で構成されていることを、これらの数字は物語る。ただ、「商業広告」とだけは、0.36とこの層にとって相対的にたかいのは、広告という共通面があるからだろう。

この表は、全体を眺めることによって次のようなこともわかる。たとえば、「特別読物」や「評論」は、「社説コラム」「特集記事」との共通度がたかく、次の「ニュース解説」「ニュース」との共通度よりも「紹介記事」「読者作文」との共通度のほうがいくぶんたかい。これらの関係を図示すれば、右のようになる。(A = 社説コラム or 特集記事, B = ニュース解説 or ニュース, C = 紹介記事 or 読者作文, と考えればよい。)

また、一つ一つの分野について、他の分野との共通度の算術平均値をもとめ、そのたかい順に並べると次のようになる。



特別読物	.563	読者作文	.534	ニュース展望	.454
特集記事	.550	ニュース解説	.527	商業広告	.351
社説コラム	.544	実用読物	.522	記録通知	.233
評論	.543	相互通信	.521	案内広告	.164
紹介記事	.538	小説	.492		
ニュース	.538	探訪ルポ	.485		

この数値じたい特別意味をもつものではないと思うが、どの分野でも用いられている語を使っていれば、この値がたかくなるといえよう。「特別読物」や「特集記事」は、この値が他より比較的たかく、はばの広い（どの層にも出現しやすい）語が多く用いられていると考えられよう。「案内広告」はきわめてその値が小さく、その層に特有な語で表現されていることを示している。「記録通知」や「商業広告」も「案内広告」ほどではないが、この傾向がつよい。

この共通度は、類似度をはかる方法で、広くいろいろな方面に活用できるこ

とが、さきの文献で示されている。私は、共通度をはかる汎用のプログラムを作成し、電子計算機によって以上の結果をもとめた。データである用語のリストなどは磁気テープに収められているものであり、今後隨時、所望のデータをとりだして同じような測定結果を短時間に入手できる。たとえば、他の区分による層別の類似関係をみるとか、句読点や記号類を除いたリストで各層間の類似関係をみるとか、語種別あるいは品詞別に応用するなど、いろいろ可能である。同じ区分による層分けて、記号などを含んだもの、それを省いたもの、語種別によるもの、品詞別によるもの、助詞や助動詞の使われ方などの類似の度合をはかり、それを総合的に眺めれば、分野ごとの語彙構成の性格や特徴を知る重要な手がかりになると思う。

また、いわゆる自立語にかぎられるが、各分野に用いられた語を、カテゴリーで分類して類似関係をみることもできる。分類の方法として、いろいろ考えられようが、たとえば、『分類語彙表』によって、グループを単位とし、その上で各分野間の共通度をみるのも一つの方法かと思う。電子計算機に『分類語彙表』を収録し、調査した用語とそれを照合させてグループに分ければ、このような規準でも類似関係をもとめることができる。

私は、調査資料をかえて、ニュースと社説とコラムの三つの分野について、それぞれの体言のみをひろい出し、この方法を試みた。これは、体言の類似度をはかることで、話題の類似をみようとしたわけである。この試みで調査対象としたのは、昭和47年4月に出た朝日新聞の朝刊で、ニュースは、この新聞の第一面の最初の記事、社説は社説欄の記事、コラムは天声人語であり、各々の分野で対象となる全文から、文を単位として150文をランダムに抽出し、その150文に含まれる体言を分類した。表II.2.はその結果であり、これに共通度の式をあてはめて得た値は、次に示すとおりである。

ニュース～社説 0.83

社説 ～コラム 0.81

ニュース～コラム 0.78

つまり、ニュースと社説との類似度がもっともたかく、ニュースとコラムとの類似度がもっともひくい。これは、調査の対象とした三つの分野の話題の類

表II2.

() 内は百分比

	ニュース	社説	コラム			ニュース	社説	コラム	
抽象的関係	1.10	86 (5.21)	120 (8.24)	61 (6.35)	こと, もの, こそあど	1.20 .21	75 (4.55)	58 (3.98)	36 (3.75)
	.11	58 (3.52)	53 (3.64)	28 (2.92)	関係・理由		5 (0.30)	—	3 (0.31)
	.12	7 (0.42)	11 (0.75)	5 (0.52)	有・無	.22	4 (0.24)	4 (0.27)	2 (0.21)
	.13	32 (1.94)	52 (3.57)	19 (1.98)	様相・性質	.23	17 (1.03)	30 (2.06)	20 (2.08)
	.14	8 (0.48)	6 (0.41)	5 (0.52)	力・能力など	.24	91 (5.52)	26 (1.78)	41 (4.27)
	.15	65 (3.94)	67 (4.60)	31 (3.23)	作用・動き	.25	80 (4.85)	86 (5.90)	61 (6.35)
	.16	150 (9.09)	131 (8.99)	94 (9.79)	位置・時間	.26	45 (2.73)	36 (2.47)	18 (1.88)
	.17	93 (5.64)	67 (4.60)	31 (3.23)	空間・場所	.27	67 (4.60)	52 (3.57)	25 (2.60)
	.18	9 (0.55)	10 (0.69)	8 (0.83)	形	.28	96 (5.82)	23 (1.58)	12 (1.25)
	.19	73 (4542)	65 (4.46)	64 (6.67)	量・数・程度				

	ニュース	社説	コラム			ニュース	社説	コラム	
人間活動—精神および行為	1.30	181 (10.97)	193 (13.25)	75 (7.81)	心・知	1.40 .41	2 (0.12)	4 (0.27)	2 (0.21)
	.31	90 (5.45)	50 (3.43)	40 (4.17)	言語活動		8 (0.48)	3 (0.21)	1 (0.10)
	.32	— (0.41)	6 (0.31)	3 (0.31)	創作	.42	2 (0.12)	3 (0.21)	
	.33	17 (1.03)	27 (1.85)	33 (3.44)	生産物および文化一般	.43	3 (0.18)	4 (0.27)	19 (1.98)
	.34	22 (1.33)	26 (1.78)	12 (1.25)	義務・行為	.44	2 (0.12)	8 (0.55)	1 (0.10)
	.35	62 (3.76)	53 (3.64)	30 (3.13)	交渉	.45	10 (0.61)	5 (0.34)	5 (0.52)
	.36	76 (4.61)	43 (2.95)	20 (2.08)	わり	.46	23 (1.39)	3 (0.21)	8 (0.83)
	.37	38 (2.30)	53 (3.64)	27 (2.81)	政	.47	1 (0.06)	4 (0.27)	7 (0.73)
	.38	23 (1.39)	47 (3.23)	22 (2.29)	経済				
					仕事				

	ニュース	社説	コラム			ニュース	社説	コラム	
自然物および	1.50	1 (0.06)	5 (0.34)	4 (0.42)	光・色・音	.56	4 (0.24)	3 (0.21)	13 (1.35)
	.51	8 (0.48)	3 (0.21)	19 (1.98)	自然・天然	.57	5 (0.30)	4 (0.27)	15 (1.56)
	.52	2 (0.12)	3 (0.21)	6 (0.63)	宇宙・地形	.58	6 (0.36)	7 (0.48)	10 (1.04)
	.55	3 (0.18)	3 (0.21)	25 (2.60)	植物				

似性をものがたっているだろう。分野間での話題の類似度をはかるのに、こういったやり方も有効ではないかと思う。このようにグループごとに分類し、類似関係を測定すると、個々の語についてやるよりもとめる数値はたかくなる。話題による区分（T層）でこれを試みれば、相互関係がはっきりと示されると想像する。

ところで、新聞の用語調査が設計され、それが進行して、その結果得られたデータをその用語規定にしたがい、層別情報を利用して各分野間の用語の共通度をみてきたわけであるが、これらの結果を次のように、役立てることができる。共通度のたかいものをまとめた形でいくつかのグループに分けることができ、このような語彙表を使っていろいろ分析をすすめていくのに、より大きな分類（層分け）にしたがったほうが好都合な場合もある。また、多数の分野を少数の分野のグループに分けることは、全体の語彙構造を知るのに効果的であり、次回から同じような調査をくりかえすときの能率化にもつながるだろう。

注6) 共通度と類似度とは厳密には異なる概念だと思うが、ここではほとんど区別していない。ただ、共通度は全く同じものについて、類似度は、似ているものについての度合という意味で区別していることもある。

注7) 水谷静夫氏「語イの共通度について」『計量国語学』7号

注8) 安本美典・本多正久両氏「言語系統論のための一つのこころみ」『計量国語学』47号、両氏は、『相伴指數』と名づけている。

注9) 宮島達夫氏「語いの類似度」『国語学』82. 本稿の「用語の共通度」に関する部分は、この文献に負うところが大きい。

付表

以下の表は、「層別用語表」ともいべきもので、以上の分析に使用したもの的一部である。話題による区分（T層）の用語表は別に語彙表として出されるが、文種による区分も活用できるものと考え、使用率の充分たかいもののみ、ここに掲載した。標本使用率のたかい順に配列し、いずれの層も0.5パーセントでうちきってある。ここでは、相対的尺度である使用率のみを示しており、標本使用度数、精度などは省略した。（なお、「ニュース展望(09)」は、標本数が小さいため、表を割愛した）

この表の作成には、桜井敏子さんの協力をえた。

順位	見出し語	標 本 使用率					
ニュース (01)							
			40	1	1.744		.644
				つい	1.711		.635
				など	1.700	ても	"
				たが	1.585	米国	
				その	1.545	發	
				れて	1.497	たと	.633
				や	1.494	ろ	.631
				れる	1.439	などの	.629
				よる	1.433	いっ	"
				一	1.282	1120	.624
			50	午後	1.278	とも	"
				東京	1.269	調べ	.622
				また	1.234	なら	.613
				だ	1.207	す	.611
				午前	1.205	さらに	.607
				との	1.112	昨年	.598
				する	1.057	への	.589
				れ	1.044	4	.582
				2	1.033	なく	.578
				ては	1.026	うち	"
			60	まで	1.011	ので	.574
				み	1.006	対する	.571
				か	1.000	開か	.560
				なる	.967	一日	.556
				き	"	考え	.554
				へ	.914	それ	"
				約	.911	より	.538
				ところ	.850	たい	.536
				政府	.832	あと	"
				おり	.830	ほか	.527
			70	あっ	.821	結果	.518
				対し	.801	でき	.516
				あり	.797	同日	.514
				日本	.788	中	.510
				にも	.748	順位	見出し語
				問題	.717		標 本 使用率
				しかし	.708	ニュース解説 (02)	
				ば	.684	1	,
				でも	.664		の
				だが	.662		を
				よう	.653		に
			80	現在	.646		・
							は

	が	22.931		たが	1.300		う	.718
	て	22.623	50	3	"		だろう	"
	と	20.912		また	"		=	"
10	で	17.079		だ	1.266		自民党	"
	た	15.059		一	"		—	"
	〔	9.583		にも	1.232		結果	.684
	〕	9.480		とも	1.197		たと	"
	いる	8.009		それ	1.163		なければ	"
	ある	7.324		ても	"	100	いま	.650
	こと	6.503		日本	"		中国	"
	し	6.195		なら	1.129		わけ	"
	"	6.023	60	や	"		こう	"
	も	5.510		なる	1.095		とつ	"
20	から	5.168		ば	"		昨年	"
	「	5.133		か	1.061		たい	"
	」	"		あつ	"		ての	"
	ない	5.099		考え	1.026		とは	"
	いう	4.209		対する	.958		開か	.616
	この	3.559		よる	"		場	"
	もの	3.319		ず	"	110	ような	"
	では	3.148		対し	.924		一方	"
	0	2.977	70	問題	"		ように	"
	¶ M○	2.840		でき	"		国民	.581
30	その	2.703		き	.889		中	"
	ため	2.669		でも	"		よっ	"
	なっ	2.361		れ	"		点	"
	い	2.327		まで	"		より	"
	には	2.293		への	"		¶ 20	"
	れた	2.224		現在	.885		5	"
	・	2.190		政府	"	120	間	.547
	など	2.053		家庭	"		ソ連	"
	これ	1.985	80	なく	"		約	"
	1	1.882		あり	"		おり	"
40	つい	1.848		のは	"		社会党	"
	する	1.779		ところ	"		必要	"
	み	1.642		米国	.821		ある	"
	2	1.608		だが	.787		での	"
	しかし	1.574		られる	"		¶ 10	"
	れる	"		できる	"		および	"
	との	1.471		前	752	130	などの	"
	れて	1.437		よう	"		以上	"
	ては	1.369	90	方針	"		解説	.513

140	中心	"	30	こ	3.023	80	でき	"
	みる	"		い	2.918		ような	"
	いつ	"		や	2.640		考	.093
	なか	"		れ	2.345		え	"
	ここ	"		そ	2.228		ま	.886
	東京	"		た	2.171		き	.868
	さらに	"		な	2.102		よ	.851
	なり	"		な	2.050		り	"
	こんど	"		ば	1.876		す	.833
	とき	"		れ	1.859		要	.816
順位	見出し語	標本 使用率	40	て	1.824	80	ので	"
				も	1.772		東京	"
				の	1.702		ど	"
				な			う	"
				ら			わ	"
				な			け	"
				ら			場	"
				な			合	"
				ら			よ	.799
社説コラム(03)								
1	,	72.870	50	問	"	90	よっ	.764
	の	60.291		す	1.667		とは	.747
	・	34.663		て	1.633		と	.729
	を	34.506		か	"		の	"
	に	32.786		だ	1.494		た	"
	が	25.992		だ	1.476		い	.712
	は	24.411		つ	1.407		人	"
	て	23.786		に	1.355		よ	.694
	と	22.083		も	1.337		う	"
10	で	18.782	60	・	1.320	100	きらに	"
	た	13.517		で	1.303		よ	"
	ある	10.859		あ	1.285		うに	"
	いる	8.444		日	"		対する	.677
	ない	7.505		本			國民	"
	こと	"		わ			われわれ	"
	も	7.384		日			点	.660
	「	6.758		本			いえ	"
	」	6.654		わ			そ	"
20	いう	6.532	70	な		110	の	"
	し	6.115		ど			へ	.642
	"	5.837		あ			な	.625
	この	4.326		…			ど	"
	から	3.805		政			べき	"
	には	3.561		府			みる	.608
	では	3.492		れ			い	"
	もの	"		る			ま	"
	M○	3.214		な			以	"
	その	3.162		よ			上	.590
	〕	3.040		た			な	"
				が			か	"
				一			れ	.573
				し			ア	"
				か			メ	"
				み			リ	"
				こ			だ	"
				ろ			う	"
				う			思	"

120	まず	"	30	から	4.810	70	き	.955
	国	.555		この	3.968		どう	.936
	「M○	"		では	3.800		中国	"
	れ	.538		その	3.144		ところ	.917
	いい	"		には	2.976		でき	.880
	最近	"		い	2.882		まで	.861
	のが	"		もの	2.508		ソ連	.824
	ぬ	.521		だ	2.489		いま	"
	くる	"		か	2.283		ように	"
	対し	"		一	2.115		との	.805
	とき	.503		これ	2.059		とき	"
	現在	"		なっ	1.984		日本	"
	中	"		ため	1.872		わけ	"
	一方	"		なる	1.759		とは	"
	これら	"		「M○	1.722		ので	"
	こう	"		れた	1.703		あり	.786
40	順位	見出し語	標本	使用率			考え	.767
	特集記事	(04)					…	"
	1	,	66.109				こう	.749
	の	59.408		する	1.572		昨年	.730
	を	34.589		つい	1.535		れ	"
	・	34.365		ば	1.460		ず	.711
	に	31.070		ても	1.441		現在	"
	は	26.092		など	1.423		場合	"
	が	24.426		それ	1.385	90	一つ	"
	て	23.752		問題	1.385		国	.674
	と	22.498		れて	1.310		う	.674
	で	15.535		でも	1.310		=	.655
	た	15.030		にも	1.273		たと	"
	いる	9.658		なく	1.217		必要	"
	"	8.554		いっ	1.217		とも	.636
10	「	8.067		ては	1.217		対し	"
	」	8.048		たが	1.217		対する	"
	ない	7.449		また	1.160		政府	"
	ある	6.588		み	1.160	100	よう	"
	〔	6.476		なら	1.086		ような	.618
	し	6.383		・	1.067		以上	"
	も	6.364		0	1.048		への	"
	〕	6.308		あっ	"		のが	"
	こと	6.177		のは	1.029		ことし	"
	いう	6.102		だが	1.011		へ	"
				よる	.992		なり	.599

110	とくに	"	20	らい	6.559	60	たが	1.129
	国民	"		こと	6.235		私	"
	米国	"		"	5.901		人	1.080
	などの	.580		[5.832		き	1.031
	強い	"		し	"		とき	1.021
	人	"]	5.783		ところ	"
	点	"		から	4.546		なく	"
	出	"		その	3.849		まで	.962
	できる	.562		では	3.535		いま	"
	より	"		この	3.495		では	.913
	だから	.543		い	3.417		あり	"
	おり	.524		もの	3.093		でき	.903
	みる	"		には	3.063		…	.844
	とっ	"		なつ	2.572		れ	.835
	だと	"		だ	2.405		つい	.815
120	さらに	"		や	2.150		へ	.805
	よっ	"		あつ	2.032		ので	"
	同じ	.505		それ	1.826		問題	.776
	いわ	"		れて	1.757		だった	.756
	たい	"		・	1.728		み	"
	こんど	"		一	1.718		よる	.697
	はじめ	"		こそ	1.708		東京	.687
	順位	見出し語		0	1.699		いい	"
				れた	"		ような	.677
	特別読物 (05)			「M○	1.689		中	"
10	,	69.317	40	でも	1.669	80	ように	"
	の	57.024		か	1.640		とは	.668
	・	37.898		なる	1.600		こう	"
	に	31.252		ため	1.581		どう	.658
	を	31.065		いっ	"		わけ	"
	が	25.400		日本	1.541		とっ	.648
	て	25.331		ても	"		以上	.628
	は	24.605		ば	1.483		のが	.619
	と	21.149		する	1.355		できる	"
	た	17.437		だが	1.286		間	.609
	で	16.573		など	1.267		だから	.599
	」	8.238		れる	"		ず	"
	いる	8.080		にも	1.227		への	.589
	「	8.041		なら	1.198		アメリカ	"
	ある	7.864		また	"		=	"
	も	7.491		しかし	1.188		なり	.579
	いう	6.588		のは	1.168		たと	"

110	だと	.569	20	し	6.689	70	ような	1.200		
	より	.560		も	6.467		いつ	1.178		
	現在	"		その	4.889		たが	1.156		
	出	"		から	4.422		中	1.111		
	よつ	.550		[4.156		ところ	"		
	昨年	.540]	"		れる	1.089		
	前	"		この	4.067		一	"		
	ここ	"		もの	4.044		つい	1.044		
	多い	"		には	3.467		だが	1.022		
	思う	.530		では	3.156		まで	.978		
	だろう	.520		"	3.044		そして	.933		
	くる	"		それ	3.022		問題	"		
	いわ	"		い	2.711		こう	.911		
	みる	"		や	2.667		とは	.844		
	そう	"		これ	2.289		う	"		
	同じ	.511		なつ	2.178		とき	"		
	見	"		あつ	2.133		考え	"		
	たら	"		なる	2.000		れ	"		
120	場合	"		だ	1.956		一つ	.822		
	とも	"		ば	1.933		あろ	"		
		.491		日本	1.733		など	.800		
				でも	1.711		いい	"		
				。	1.667		だろう	"		
順位 見出し語 標本 使用率										
評論・論文 (06)										
1	,	68.356	40	する	1.644	80	思う	.778		
	の	57.644		なく	1.622		いま	"		
	・	36.333		なら	"		そう	"		
	に	33.178		れて	1.600		す	"		
	を	31.956		にも	1.556		への	.756		
	て	26.511		私	1.489		でき	.733		
	は	24.333		ため	1.467		ように	"		
	が	24.289		れた	1.444		との	"		
	と	22.133		ても	"		よつ	.733		
	で	17.000		か	"		知識人	.711		
10	た	14.600	50	ので	"	100	人間	"		
	ある	10.911		のは	"		ての	.689		
	」	9.400		また	1.422		いえ	"		
	「	9.333		しかし	1.378		なり	"		
	いる	9.022		あり	1.356		より	"		
	こと	8.089		「」M○	1.289		とも	"		
	いう	7.844		人	"		方	"		
	ない	7.644		き	1.222		自分	.667		
				ては	1.200		アメリカ	"		

	よく	.667		に	30.637		これ	1.481
	わけ	.644		て	27.005		よい	1.409
	み	"		が	24.256		ば	"
	たら	"		は	22.679	50	だ	"
	へ	"	10	と	18.640		なり	1.386
	どう	.622		で	14.816		ように	"
110	そこ	"		た	10.491		み	1.362
	ぬ	"		[8.173		れて	"
	なか	"]	8.077		など	1.338
	…	"		も	7.862		よく	"
	点	.600		いる	7.217		人	1.314
	話	"		ます	5.902		か	1.290
	ながら	"		し	5.759		それ	1.218
	現在	"		¶ M○	5.663	60	また	1.194
	ます	"		「	5.639		ので	1.147
	できる	.578	20	」	5.616		いっ	"
	だった	"		"	5.377		中	"
120	作品	"		ある	"		たら	1.123
	たと	.556		から	5.257		なら	"
	間	"		いう	5.233		ため	"
	見	"		こと	4.636		場合	1.099
	とつ	.533		もの	4.492		たり	1.075
	一	"		ない	4.445	70	にも	1.051
	だと	"		や	3.154		まで	"
	以上	"		では	3.106		れる	"
	さらに	"	30	には	2.891		のは	1.027
	あるいは	"		その	2.461		なく	1.003
130	のが	"		この	2.413		多い	"
	意味	"		い	2.342		…	"
	場合	"		なっ	2.246		でき	.955
	たい	.511		なる	2.222		つけ	"
	くる	"		です	2.198		¶ 1○	"
	たのは	"		・	2.150		方	"
	国民	"		あり	1.959	80	できる	.908
	よう	"		でも	1.744		き	.860
順位	見出し語	標本 使用率	40	とき	1.696		のが	.812
	実用読物	(07)		こ	"		しかし	"
1	,	70.189		入れ	1.648		ました	.788
	の	51.476		一	1.625		大さじ	.764
	・	41.224		ても	1.577		たい	"
	を	31.521		する	1.505		つい	"
				ところ	1.481		だが	"

90	同じ	.740	順位	とつ	.501	40	たが	2.211
	いい	"		よつ	"		だ	2.161
	へ	"		だから	"		白	2.075
	上	"					黒	2.038
1120	水	.716	見出し語	標本	使用率		なつ	1.988
		.693		探訪ルポ (08)			には	1.964
100	あつ	"	1	,	51.550	50	6	1.717
	加え	"		の	40.988		その	1.680
	かけ	"		0	36.837		…	1.519
	ては	.669		・	33.403		これ	1.470
	ません	.645		を	26.102		れた	1.445
	おく	"		は	23.211		7	1.383
	よう	"		に	23.075		もの	1.272
	問題	"		が	21.680		こ	1.247
	ほか	621		て	18.381		東京	"
	家庭	"	10	】	18.208		巨人	1.222
110	前	"		た	18.134	60	まで	1.210
	東京	.597		〔	18.122		だった	1.198
	ような	"		と	17.220		それ	1.185
	日本	"		で	15.330		8	1.173
	より	"		1	13.613		だが	1.136
	材料	.573		11 M○	13.057		打	1.124
	れた	"		2	6.485		ば	1.087
	子	.549		も	5.954		ところ	1.050
	いわ	"		」	5.052		へ	1.037
	前後	"	20	「	4.916		あつ	"
120	気	"		3	4.867	70	いっ	"
	出	"		から	4.632		前	.988
	とも	"		一	4.410		三	"
	手	"		いる	4.212		れて	.975
	もう	"		4	4.187		中	"
	す	"		"	4.002		9	.963
	わけ	"		ない	3.891		なる	"
	などの	.525		ある	3.570		や	.938
	考え	"		し	3.409		あと	"
	値段	"	30	いう	3.236		か	"
130	まず	"		・	2.865		中日	.901
	だけ	"		この	2.730		でも	"
	1130	"		こと	2.717		ため	.889
	てから	.501		い	2.655		投	.877
	塩	"		では	2.421		ても	.864
130	母親	"		5	2.248		日本	.852

				手	.506		6	2.413
80	なら	.852		M○	"		55	2.324
	れ	.840		だらう	"		同新	2.174
	しかし	"				40	ほか	2.170
	午後	.827		順位	見出し語	標本	1○	2.158
	左	"					35	2.062
	右	.778		記録・通知 (10)				
	早大	.765	1	M○	65.566		05	1.989
	にも	.753		—	45.553		2○	1.886
	四	.741		0	26.928		から	1.837
	とき	.716		[21.989		7	1.835
	す	"]	21.806		8	1.778
90	広島	.704		,	20.635		12	1.673
	安打	"		の	18.873		25	1.511
	点	.691		1	18.086	50	9	1.464
	出	"		•	16.565		=	1.406
	いい	"	10	「	14.145		3○	1.296
	大洋	.679		」	14.030		…	1.258
	き	"		2	9.543		A	1.244
	する	.667		•	9.428		同	"
	また	.654		N○	8.660		56	1.181
	なく	.642		30	7.141		曇	1.169
100	安	"		00	6.162		も	1.157
	二	.630		を	5.956		東京	1.150
	一	"		に	5.902	60	いる	1.143
	など	"		は	5.890		晴	1.047
	本墨打	.617	20	3	5.712		"	1.033
	優勝	.605		15	4.923		11	1.012
	ここ	"		が	4.766		映○	.965
	なかつ	"		10	4.531		無	.902
	よく	.580		と	4.510		60	.896
	あげ	"		他	4.295		カラー	.883
110	ては	.568		天○	4.248		午後	.862
	ので	"		4	3.999		58	"
	み	"		て	3.824	70	もちあい	.851
	のは	"		20	3.728		歌	.836
	西鉄	.555	30	5	3.634		65	.783
	でき	.543		40	3.489		70	.780
	打つ	"		45	3.435		スポーツ	.757
	いま	"		で	3.388		ゲスト	"
	たのは	.518		は	3.041		75	"
	あり	"		再○	2.926		54	.733
120	14○	.506		50	2.875		4○	.724

80	53	.724		6.00	.562		”	6.960
	52	.715		120	.560		も	6.324
	7.00	.710		66	”	20	から	5.782
	80	”		前	.558		いう	5.517
	38	.703		13	”		ある	5.504
	51	.701		76	.555		し	5.345
	39	.698		48	.548		こと	4.102
	し	.694		46	.546		” M○	4.035
	後	.691		34	”		ない	3.903
	90	.670	130	49	.534		この	3.691
	71	”		105	.532		・	3.559
90	63	”		いう	.527		その	2.951
	72	.668		140	”		もの	2.792
	73	”		7:00	”	30	では	2.686
	57	”		150	.525		い	2.554
	きょう	.663		なつ	.522		や	2.435
	100	.658		64	.520		なつ	2.342
	ある	.656		43	.518		には	2.091
	42	.654		32	.511		=	1.971
	風	.651	140	95	.508		だ	1.866
	雨	.647		” 7○	”		—	1.694
100	36	.637		78	.504		など	1.614
	解説	.626		{	.501		でも	1.548
	まで	.623				40	れて	1.522
	85	.621					き	”
	77	.619						
	67	.616						
	61	”						
	” 6○	.614						
	59	”						
	110	.609						
110	18	.600						
	37	.593						
	この	.590						
	130	”						
	68	”	10					
	47	.588						
	こと	.581						
	41	”						
	ない	.574						
	!	.569						
120	” 声○	”		いる	7.539			”

60	東京	.953		ことし	.542	40	では	2.821
	か	"		のが	"		この	2.725
	する	.939		目	.529		0	2.597
	とき	.913		昨年	"		には	2.308
	ところ	.886		より	.516		なつ	2.052
	ても	.847		昭和	"		ました	2.020
	いま	.834		ながら	"		や	1.924
	のは	.820		などを	.503		人	1.892
	なく	"		順位	見出し語		また	1.795
	作品	.794			標本 使用率		あつ	1.731
70	いっ	"		読者の作文 (12)				
	ます	.781		1	,	60.080	それ	1.699
	また	.767			の	53.475	なる	"
	しかし	.754			・	38.119	なく	"
	後	"			を	34.624	か	1.667
	夜	.714			に	30.489	東京都	"
	れ	.701			て	29.559	あり	"
	出	"			が	22.634	でも	1.635
	ては	"			は	21.288	する	1.603
	いい	"		10	と	18.402	ば	"
80	前	.688			た	15.645	ても	1.539
	中	.675			で	15.068	れて	1.475
	あり	"			も	8.496	まで	"
	よう	に			こと	7.951	思う	1.443
	私	"			いる	7.502	ため	1.411
	です	.648			ある	7.213	ので	1.379
	なら	.635			ない	7.053	だ	1.346
	見	"			し	6.572	れた	"
	なり	"			〔	6.540	です	"
	つい	"		20	〕	6.444	にも	"
90	アメリカ	.609			」	6.027	なら	"
	でき	.582			「	5.995	これ	1.314
	よく	.569			から	5.065	き	1.250
	とも	"			・	4.745	いっ	"
	み	"			い	4.617	一	1.218
	との	"			いう	4.585	へ	"
	だった	.556			私	4.104	つい	1.186
	自分	"			その	4.039	たい	1.154
	たい	"			「M○	3.879	中	1.090
	ので	"		30	”	3.398	す	"
100	たと	"			もの	3.078	見	1.026
	ような	.542			ます	3.046	思い	"
							だが	.994

	よう	.994		学生	.577		もし	7.253
	ところ	"		しまっ	"		・	7.218
	いい	.962		やっ	"		一	6.552
	東京	"		一つ	"	20	いる	6.342
	…	"	120	ながら	"		ない	5.886
80	とき	.930		ません	"		い	"
	など	"		感じ	"		」	5.186
	時	.898		1	"		から	4.660
	ような	"		会社員	.545		「	4.555
	でき	"		多い	"		ある	"
	ほしい	"		よく	"		いう	"
	たが	.866		どう	"		です	3.819
	れる	"		母	"	30	あり	3.784
	考え	.834	130	前	"		もの	3.539
	自分	"		のが	"		では	"
	なり	"		たり	"		その	3.258
90	のは	.801		との	"		この	3.188
	れ	"		そう	"		には	2.628
	方	"		くる	.513		私	2.593
	ては	.769		たと	"		人	2.382
	み	"		子供	"		か	"
	気	.705		出	"		なつ	2.347
	主婦	"		かけ	"		あなた	2.312
	問題	"		順位	見出し語	標本	ません	2.277
	できる	"				使用率	ました	2.242
	日本	"		相 互 通 信 (13)				2.172
100	一人	.673	1	,	64.054		1	1.962
	たら	"		の	49.022		れ	"
	しかし	.641		・	38.369		て	1.857
	目	"		を	30.100		ため	1.822
	日	"		て	27.647		や	1.752
	より	"		に	27.051		ば	1.717
	場合	"		は	22.846		これ	"
	家	.609		が	21.445	50	なり	
	持つ	"		と	17.310		0	"
	ように	"	10	で	13.946		ても	1.576
110	仕事	"		こ	9.531		また	1.541
	とも	"		く	9.285		思	1.506
	間	"		＼M○	8.269		い	"
	手	"		た	7.849		方	"
	思つ	"		ま	7.498		な	1.401
	心	"		こと	7.428		る	"
							それ	"
							へ	"
							で	"

60	なら	1.331	110	ください	.805	150	三	.560
	にも	"		どう	"		つけ	"
	いっ	1.261		考え	"		のです	"
	中	1.191		現在	"		お答え	.525
	=	"		ず	.770		時	"
	する	1.156		自分	"		よる	"
	ように	"		親	"		あと	"
	など	"		結婚	.735		投書	"
	のは	"		ですが	"		子	"
	いい	1.121		ぬ	"		とっ	"
	"	"		出	.700		一	"
	たら	1.086		よう	"		同じ	"
	ますが	1.051		できる	"		以上	"
	まで	"		への	"			
70	家	1.016		問題	"			
	たい	"		多い	.665			
	き	"		より	"			
	つい	"		しかし	"			
	ので	"		東京都	"			
	ては	.981		だと	"			
	2	"		ながら	"			
	とは	"		だけ	.630			
	でき	"		3	"			
	でしよう	.946		一	"			
	彼	"		必要	"			
	下さい	.911		よく	"			
	前	"		娘	"			
80	夫	"		ご主人	.595			
	あっ	.876		だ	"			
	場合	"		れ	"			
	よい	"		子ども	"			
	東京	"		手	"			
	ような	"		ほしい	"			
	なく	"		ノ	"			
	とき	"		み	"			
	おり	.840		仕事	"			
	たり	"		いわ	.560			
	れる	"		他	"			
	ところ	"		いえ	"			
	気	.805		主婦	"			
90	思う	"		今	"			
	れた	"		のが	"			
100								

順位 見出し語 標本 使用率

小説 (14)

1	,	68.078
	・	45.145
	の	42.671
	て	33.118
	に	32.025
	を	30.816
	は	29.867
	た	26.788
	が	22.501
	と	18.990
	」	15.739
	「	15.566
	で	15.106
	も	8.833
	こと	6.848
	いる	6.215
	し	6.100
	ない	5.898
	い	5.466
	ある	5.294
	いう	4.661
	から	4.488
	その	4.200
	〔	3.826
	〕	3.740
		3.711

30	それ	2.848	70	つい	.949		事 ず 者	.690
	あっ	2.819		たら	.920		と こ ろ	"
	か	2.675		れた	"		た め	"
	だ	2.618		彼	"		だ っ た	"
	には	2.560		ぬ	"		行 っ	"
	この	2.532		言う	.891		で す	.661
	なっ	2.301		たと	"		乃 木	"
	もの	2.273		・	"		字 吉	.633
	では	2.129		私	"		聞 い	"
	へ	1.841		人	"		言 葉	.604
40	来	1.812	80	まだ	"		だ ろ う	"
	そう	1.783		思う	.863		お れ	"
	たが	1.755		ては	"		し ま っ	"
	言っ	1.697		方	"		間	"
	いっ	"		どう	"		う と	"
	ます	1.668		のを	"		こ う	"
	自分	1.640		なかつた	"		え	.575
	時	1.582		とは	"		だ か ら	"
	や	"		そんな	.834		れ る	"
	一	1.553		まで	"		思 い	"
50	なる	1.496	90	なく	"		せ	"
	よう	"		ので	"		ま せ ん	"
	ても	1.467		なかつ	"		彼 女	"
	一鬼	1.438		いい	.805		眼	.546
	見	1.323		な	"		日	"
	する	"		考 え	"		よ く	"
	でも	1.266		いま	"		藤 沢	"
	?	1.237		あの	"		み	"
	れて	"		画	.776		だ と	.517
	顔	1.208		くれ	.748		来 る	"
60	また	"	100	中	"		女	"
	これ	"		話	"		ま し た	"
	しかし	1.179		のが	"		と も	"
	ば	"		たので	"		順 位	見 出 し 語
	なら	1.179		ながら	"		標 本 使 用 率	
	にも	1.150		男	.719		商 業 広 告 (15)	
	のは	1.122		"	"		1	の
	何	1.064		出	"			43.983
	もう	"		なり	"		・	28.842
	あり	1.007		き	.690		[25.173
	思つ	"		だが	"]	24.878
	気	.949		ような	"			

	¶ M○	24.220		あり	1.251		か	.583	
	,	22.206		他	1.246	90	電	.568	
	を	19.035	50	電話	1.207		千代田区	"	
	に	16.986		T E L	1.162		なる	.563	
10	・	16.662		ました	1.157		?	"	
	は	10.769		3	1.127		なら	"	
	が	10.011		こと	1.122		歴	"	
	…	9.313		や	1.117		ほか	"	
	で	8.909		には	1.092	100	できる	.558	
	と	8.580		いる	1.077		中	"	
	て	8.361		にも	1.007		する	"	
	/	6.407		など	.982		前	.553	
	ます	6.058		株式会社	.977		新しい	.543	
	一	6.028	60	もの	"		優遇	"	
	た	5.529		でも	.967		中央区	.538	
20	!	4.821		あなた	.937		なつ	.523	
	です	3.769		迄	.907		6	"	
	<	3.605		代	.887		れて	"	
	>	3.555		下さい	.882		なく	.519	
	も	3.495		株	.853		でき	.509	
	から	3.231		年	"		順位	見出し語	標本 使用率
	=	2.932		ません	.828				
	」	2.518		一	.808				
	「	2.493	70	銀座	.793				
	東京	2.453		ため	.788		1	〔	44.381
30	"	2.383		いう	.753			〕	44.171
	まで	2.159		世界	.743			¶ M○	24.067
	ください	1.959		日本	.703			・	23.557
	より	1.949		5	.693			の	18.611
	¶ Y○	1.880		日	.668			,	9.280
	し	1.875		では	.658			歩	7.949
	東京都	1.730		以上	.643			迄	6.954
	1	1.565		新宿	.633	10		一	5.963
	~	1.546	80	これ	.623			可	5.800
	へ	1.516		100	"			歴	5.529
40	ない	1.511		4	.613			給	5.346
	この	1.466		有	"			に	4.895
	2	1.446		上	.608			年	4.879
	ある	1.376		れた	.598			有	4.461
	その	1.321		可	.593			委託	4.401
	方	"		だ	.588			一	4.391
	い	1.281		発売	"			株	4.375
								優遇	4.361

20	建上を～完	4.231	70	仲介	1.642	110	来社	1.041
	社保	3.727		私道	1.615		写真	1.038
	6	3.607		委細	1.592		三万	1.031
	持	3.460		年齢	1.575		男女	1.015
	面接	3.407		見習	1.572		急募	1.011
	二面	3.393		履歴書	"		日	1.005
	は	3.387		寮	1.565		月	.994
	住	3.313		道	1.555		10分	.991
	舍	3.237		高卒	1.525		五	.988
	以上	3.207		...	1.522		株式会社	.978
30	面談	3.173	80	交通費	1.495	120	毎日	.968
	不問	3.063		昇給	1.482		二回	.941
	壳	3.060		経験者	1.475		総	.931
	45	"		給与	1.465		1	.924
	通	3.040		四	1.462		経位	.918
	持参	2.900		と	"		30	.908
	方	2.873		台	"		事務員	.904
	KK	2.836		て	1.462		中央区	"
	より	2.743		代	1.442		代表	.891
	ます	2.723		国電	1.422		電話	.878
40	・	2.613	90	女子	1.408	130	{	"
	・	2.516		資格	1.362		午後	.874
	・	2.489		新宿	1.308		千代田区	.851
	・	2.446		2	1.295		池袋	.841
	・	2.316		男子	1.285		4	.834
	・	2.302		二万	1.258		あり	.828
	及	2.262		環	1.248		休	.821
	三	2.179		和	1.245		まで	.818
	募集	2.139		付	1.228		面接日	.814
	経験	2.122		六	1.215		細	.804
50	残	1.985	100	住込	1.211	140	位迄	"
	頭	1.972		当社	1.178		銀座	.794
	他	1.965		も	1.175		10時	"
	3	1.952		社員	1.131		363	.788
	浴	"		電	"		25歳	.784
	支給	1.946		東京都	1.121		港区	.768
	待遇	1.902		秀	1.115		職種	.761
	完備	1.872		下車	1.108		下さい	.758
	で	1.805		勤務	1.101		送	"
	高給	1.789		車	1.065		通勤	.751
60	前	1.755		が	1.061		25	.748
	賞与	1.682		五年	1.051			

	保	.748		10名	.594
	!	"		七	.591
	5分	"	190	984	"
	神田	.744		ある	"
150	當業	.721		三年	.587
	新築	.718		20	"
	週休	.714		交費	.571
	日給	"		広	.567
	8	.711		運転手	"
	五分	.707		乞	"
	店	"		事務	.564
	又	.704		5名	"
	日本橋	.697	200	徒步	"
	数名	.694		た	"
160	です	"		歓迎	.561
	8分	.691		全額	"
	敷	"		初給	.551
	要	.684		応募	"
	規定	.677		地	.547
	"	.674		社	.541
	八	"		新宿区	"
	渋谷	.671		後	.537
	南	.664	210	ホ力	"
	陽	"		自由	.534
170	5	.661		貸与	"
	東京	.657		387	.527
	30歳	"		年令	.514
	共	.651		借	.511
	午前	.647		築	"
	洋	"		従業員	.507
	宅地	"		急	"
	即決	.634		バス	.504
	即	.627	220	月収	.501
	学歴	.624		手当	"
180	へ	"			
	郵送	.621			
	通知	.617			
	本社	"			
	庭	"			
	賃	.607			
	10	"			
	若干名	.594			